

結果(協働) (平均的意識値 市民 = 1.27 行政 = 1.21) (ポイント)

市民・行政ともに数値が高いもの
市民・行政ともに数値が低いもの
市民と行政の数値に大きく乖離があるもの

区分	設問	A B C	市民の意識値 行政の意識値 差(A - B)	結果(回答の状況)
	A - 2	市民 行政 差	1.59 1.71 -0.12	・協働することによって得られる効果について、市民・行政ともに9割以上が肯定的回答をしており、ともに高い数値となった。
	C - 1	市民 行政 差	1.5 1.71 -0.21	・協働による事業効果について、行政はa回答71%、b回答29%、100%肯定的回答となっている。市民もA - 2(協働の効果の認識)同様、約9割が肯定しており、双方ともに高い数値となっている。
	D - 1	市民 行政 差	1.71 1.67 0.04	・協働による団体・組織のメリットについて、市民・行政の意識差はなく、双方ともに9割以上が肯定していることから高い数値となっている。(双方c・d回答はなかった。)
	D - 2	市民 行政 差	1.65 1.46 0.19	・信頼関係について、D - 1のメリット同様、市民・行政ともに9割以上が肯定的回答をしており、双方ともに高い数値となっている。
	D - 4	市民 行政 差	1.8 1.69 0.11	・協働事業の継続意識について、D - 1、D - 2同様、市民・行政ともにa回答が7割を超え高い数値となっており、意識差も見られない。
	A - 3	市民 行政 差	0.9 1.05 -0.15	・準備期間(時間)について、行政は約8割が肯定的回答をしているが、c回答も15%となったため数値は1.05ポイントと低めの結果となった。市民も行政同様の回答分布となったため、意識差は生じなかった。
	C - 4	市民 行政 差	0.87 0.81 0.06	・B - 1実施の段階での協議については良好な結果が出ているが、C - 4(事業終了時の課題整理)では、市民・行政ともにb回答が高くc、dの回答もともに2割あることから、双方の数値が下がっている。実施段階と終了段階での双方の協議の場を比較した場合0.5ポイントを超える開きがある。
	A - 1	市民 行政 差	1.38 0.92 0.46	・情報の得やすさについて、行政はb回答の比重が高く、c、dの合計も2割を超えており、行政が若干情報を得にくい状況がある結果となった。
	B - 4	市民 行政 差	1.08 1.45 -0.37	・市民の担う役割について、行政は市民を高く評価しているが、逆に市民はb回答の比率が高く、c、dの回答が15%となったことから、意識差が現れた結果となった。
	C - 3	市民 行政 差	1.18 0.76 0.42	・事業の効果・成果等の公開について、市民の8割、行政の7割が肯定的回答を行なっているが、市民・行政ともにc、d回答があり、特に行政は24%がc回答、d回答を合わせた回答が約3割となっていることから、0.42ポイント行政の意識が低い結果となった。